

資料 長谷川テルとは

日中戦争の現場で反戦放送 日本女性・長谷川テル

テルの反戦放送



ただいまから重慶放送局の日本軍向け放送を致します。

日本の将兵のみなさん！どこでこの放送をお聴きでしょうか。戦争はいかなる時でも不幸なものです。あなたの撃った砲弾や銃弾はたくさんの子供たちの命を奪っています。でもそれはあなたたちが悪いのでしょうか。みなさんはこの戦争は聖戦だと教え込まれ、そう信じているかもしれませんが、はたしてそうでしょうか。ちがいます。この戦争は、大資本家と軍部の野合(やごう)世帯(じょたい)である軍事ファシストが、自分たちの利益のために起こした侵略戦争なのです。日本にいるあなた方のご家族は、皆さんのご無事を祈り、一日も早く平和が訪れることを望んでおります。

日本の将兵のみなさん！皆さんの熱い血を、あやまって流さないでください。みなさんの敵は海を隔てたこの地にはいないのです！お元気でどうかどうか生き抜いてください。

反戦放送を聞いた人々の反応

広東でも放送は聞かれていた 強力な電波だったのだろう 韓国から名門中山大学に学んだ安偶生

エスペランティストとして 後に韓国に戻り エルピン名で活躍 安重根の甥

いまあなたはマイクのまえに立って
あなたの声はおだやかではあるが
健全な良心をうしなわない魂に
あなたの声は、空しくはならぬ
その声はかならずひきさき

あなたの同胞に真実をつたえる
雷鳴を呼びおこす力がある
あなたは言葉をささげる
血に酔いしれた心を
なやませるであろうから

広州 中山大学学生 安偶生

宮西さんだけでなく 戦後 復員兵の間で大きな話題に

まづ童謡が聞こえ
長沙作戦軍の動きを
鼻にかかった女の声す
重慶放送

重慶放送は
つぶさに伝う
重慶放送
その流暢な日本語を

妨害電波しきりなる夜を
重慶放送に耳傾ける
いかなる過去をもちたる人や
ひそかに聞きておだやかならず

中支派遣軍通信兵 宮西直輝

長谷川テルの生涯



出生・少女・自立へ (1912-1937年)

- 1912年 3月7日 山梨県現大月市で父母幸之助よねの次女として出生
- 1924年 東京府立第3高等女学校入学
- 1929年 17歳 奈良女子高等師範学校に入学寮生活
- 1932年 20歳 長戸恭とともにエスペラントを学ぶ奈良の文化団体・労組・農民運動ともエスペラントを介して交流
- 9月 新学期早々治安維持法違反容疑で長戸と共に検挙退学を余儀なくされる。卒業まで半年のことだった帰京日本プロレタリア世界語者同盟に加入
- 1933年 小林多喜二『蟹工船』をエスペラントに抄訳
- 1935年 上海のエスペラント協会『ラ・モンド』に「日本婦人の状況」掲載
- 1936年 24歳 エスペラントを通して交際を深めた東京高等師範学校中国人留学生劉仁と結婚父は猛反対母と姉ユキが祝福
- 1937年 4月14日 日本の中国全土への侵略拡大を憂い救国の意思を胸に帰国した夫劉仁を追って横浜港を立つ上海で劉仁と合流上海のエスペランティスト葉籟士張企程と邂逅直ちにエスペラント誌『中国は吼える』で反戦執筆活動に入る

日中戦争下反戦活動・反戦放送に従事 (1937-45年)

- 1937年 7月 盧溝橋事件により日本軍日中戦争に突入
- 8月 第二次上海事変で上海を爆撃
- 12月 日本軍南京大虐殺テル夫妻広東に脱出
- 1938年 2月 26歳広東で長谷川テル国外追放テルとともに劉仁も香港に脱出郭沫若やエスペランティストの援助のもとに武漢に向かう
- 6月 武漢到着テルの反戦放送開始 9月武漢陥落直前に移転首都重慶に向かう
- 11月1日 東京の『都新聞』「嬌声売国奴の正体はこれ怪放送祖国へ毒づく」の見出しでテルの反戦放送を実名入りで報道
- 12月 テル夫妻重慶に到着



- 1939年 日本軍重慶無差別爆撃開始国際宣伝処所属反戦放送に従事しつつエスペラント誌『中国報導』で全世界に日本軍の蛮行と中国の抗戦および平和と人類正義への願いを発信
- 1941年 29歳 7月「重慶文化人大会」で中国共産党重慶代表・周恩来がテルに向かって「日本帝国主義者はあなたを売国奴アナウンサーなどと言っていますが実際はあなたは日本人民の忠実な娘でありあなたこそ日本の真の愛国者なのです」と称賛 この年長男劉星を出産
- 1942年 30歳 テルが愛してやまず詩「二つの失われたリンゴ」を捧げた母よね逝去それをテルは知る由もなかった
- 1943年 『闘う中国で』執筆開始中国共産党機関紙『新華日報』にも文章を寄せる
- 1944年 夫劉仁が編集長を務める「東北民衆抗日救国総会」の雑誌『反抗』で編集の任に当たる抗日戦争戦局好転につれ国民党の妨害きびしくなる
- 1945年 33歳 『闘う中国で』5月出版 ついに8月15日日本敗戦たいまつ行列に参加 9月11日『新華日報』にテル「岐路に立つ日本」を執筆「日中戦争の失敗を全く認めない」降伏文書を批判日本が再び歩みかねない危険な道について警告を発した国民党による内戦への動きを食い止め東北満州の復興に参画するようという周恩来の要請に従い東北に向かう

重慶から東北最果ての地への旅路 (1946-47年)

- 1946年 34歳 幼い劉星を連れた延べ1万2000キロの長旅が始まる重慶から武漢。武漢から上海。重慶では息子劉星が国民党特務により誘拐されたが国共休戦協定で取り戻すという事件にも遭遇。幼い劉星を連れた延べ1万2000キロの長旅が始まる重慶から武漢武漢から上海 2月上海から船で北上 瀋陽で長女暁子(劉暁嵐)出産。ハルピンから佳木斯へ列車汽船馬車徒歩軍用トラック病身には過酷な旅であった
- 1947年 1月 劉仁・テル夫妻は東北社会研究所研究員に任命される 1月10日 3人目懐胎を知ったテルは激化する内戦のもとでの自身の病弱と仕事と育児を考え中絶を決意したが術中の感染症で逝去(34歳)。最後の言葉「日本に帰りたい・・・お母さん・・・」であった夫劉仁はテルの埋葬を一時拒絶 4月に逝去(37歳)重慶でともに活動した「東北民衆抗日救国総会」指導者高崇民は東北解放後、東北行政委員会副主席となりテル夫妻の埋葬地を探し出しテル夫妻の現在に至る墓碑を建立 劉星は叔父のもとへ暁子は烈士子女の待遇でハルピンの幹部子弟孤児院に引き取られた 劉仁の弟劉介庸からテルの死を知らされたエスペランティスト由比忠之進(67年アメリカのベトナム侵略戦争に加担する日本政府に抗議して焼身自殺)が48年帰国 テル死去の報を日本にもたらした

